

浄泉寺報

第26号
2021年
秋彼岸



【法語】

死があるということが

生に無限の意義を与えている

蓬茨祖運

(真宗大谷派僧侶)

老人の不安とその救い

浄泉寺住職 望月廣三

ある日テレビを観ていると、老妻に亡くなられた老夫がこんな愚痴ともつかぬ哀感をそそるつぶやきに心が惹きつけられました。

「何で独りにさせたんだ。女房だけ先に楽になって、おれだけどうして独りになったんだ…」

何と哀れな独白でしょうか。たしかに歳をとって妻に先立たれることはどんなに辛いことか、何世三度の食事の支度から洗濯まで妻に任せきりだったことを、すべて自分でやらねばならない煩雑さに、言いようのない苛立ちと哀切とを覚えるのでないでしょうか。

しかし、人は皆、出会いがあれば必ず別離がある、この命運から免れる者は一人もいません。が、

この必然は絶望でも何でもない。なぜなら、死があるから生の意味があるからです。生の意味から考えると、死はけっして絶望ではないのです。絶望は生きる意味を失ったときです。死があるから絶望するのではないのです。お釈迦さまも親鸞聖人も、死の恐怖は肉体の死ではない、と教えています。「心」の死です。この心の再生、復活がいま最も求められているのです。浄泉寺の月例法座はこの「心」の復活を説いています。

浄泉寺からのお知らせ

● 報恩講 ●

十二月の報恩講のご案内は、後日お葉書にてお送りします。

● 同朋会 (月例法座) ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。

・ 若坊守のひとりごと ・

もう随分前のことですが、私達の結婚式で中島みゆきさんの「二隻の舟」という曲を流しました。

おまえとわたしは

たとえば二隻の舟

暗い海を渡ってゆく

ひとつひとつの舟

互いの姿は波に隔てられても

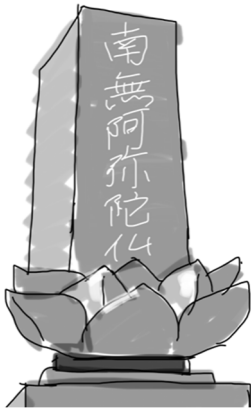
同じ歌を歌いながらゆく二隻の舟

人と人には決して分かり合えない絶対的な隔たりがあつて、それでも並び海を渡る存在なんだと共通認識が初めからできていたから、この曲を使つたんだと思います。(それにしても結婚式で使うには暗すぎる。)

そして「海」は親鸞聖人が「難度海」と言い当てられた私達の人生のこと。その海という字を子ども二人に名付けたのは、何とも夫らしいです。小さくとも子ども一人の独立した人間です。彼らは私の所有物ではないし、ひとりの人間として尊重されるべきということだけは忘れまいと努めています。その小さな身体に必ず「意思」があるということを大事にしたいなと思っています。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏（仏壇）に座る ②



墓石も立派な仏様



ご本尊・阿彌陀如来

～ 今生きる私のための「南無阿彌陀仏」のお墓 ～

お墓にもご本尊がいっしょにいらっしゃることをご存じでしょうか？うちのお墓に仏像なんか彫ってへんと仰るかもしれませんが、「南無阿彌陀仏」と彫ったお墓ならお参りしたことはあるのではないのでしょうか。

この「南無阿彌陀仏」こそ、大切なご本尊なのです。では、お墓に刻まれたこのご本尊は亡くなった方のためにあるのでしょうか？

前号では、仏様に供えるお花について書かせていただきました。仏花は仏様の方に向けるのではなく、私の方に向かって備わっているのです。そのことと同じく、

墓石のご本尊「南無阿彌陀仏」も私の方に向かって刻まれています。つまり、「南無阿彌陀仏」は私のためにこそあるのです。

ご本尊とは、「本当に尊いこと」という意味です。「お墓参りは大事にせなあかん」とよく言われますが、それはなぜか？お参りしないと死んだ先祖が化けて出るからでしょうか？否、お墓は本当に尊いことを教えてくれる場所だから、今生きる私にとって大切なのです。生きていくうえでかけがえのない場所だからこそ、お墓が「本当に尊いもの」として次世代に受け継がれるのでしょう。

お墓はまさしく、亡くなった方を私に大切なことを教えてくださる仏様といただき、その声を聞き、私自身の迷いの人生を仏様の教えに聞いていく場所なのです。

私が生まれた北陸では、上の絵のように「南無阿彌陀仏」と彫った墓石を蓮台の上に置いたお墓が主流です。隣のご本尊の写真と見比べてみてください。お墓がまさにお寺のご本尊の前と同じく、

大切な教えを聞く場所であることをよく表しているように思います。ちなみに蓮の花は、仏教を象徴する花でもあります。泥の中でも咲くということも言われますが、蓮は「泥でしか咲かない」ということを教えられます。つまり、仏様が立っておられるところは、迷いのない清らかなところではなく、むしろドロドロとした人間生活の真ただ中、やむにやまれぬ日々を送るこの私のところに仏様は立ってくださっているのです。辛い時、悲しい時、人生に迷った時、私を呼び続ける声を聞きに、お墓にそしてお寺に、ぜひお参りください。

(浄泉寺若院・釋亜世)

令和3年(2021年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和2年(2020年) 亡
三回忌	平成31 令和元年(2019年) 亡
七回忌	平成27年(2015年) 亡
十三回忌	平成21年(2009年) 亡
十七回忌	平成17年(2005年) 亡
二十五回忌	平成9年(1997年) 亡
三十三回忌	昭和64 平成元年(1989年) 亡
五十回忌	昭和47年(1972年) 亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>